

【長久手市立南中学校】

{Q1}

6年生の時に学校の眼科健診で外斜視と診断され、手術をするほどではなく、今は半年に一度病院に行っています。

{A1}

外斜視の種類として、恒常性外斜視と間歇性外斜視があります。前者は常に片眼が外向きになっている状態です。後者は片眼が外を向いている時もあるし両眼ともまっすぐ正面をみている時もある状態です。後者の場合、ぼーと見ている時に片眼が外にずれたり、近くを見つめていて疲れてくると片眼が外にずれることがあります。遠近感が悪いこともないようですので、今後も定期検査を受けて下さい。

{Q2}

小学校6年生の欄で、「視力が落ち続けており、その都度新しいものに変えていますが、もし学校で見づらそうにしていましたら、お教え頂けると助かります。」

{A2}

まず、春の学校健診で視力検査がB以下であれば、視力低下が疑われますので、眼科受診を勧めます。また、短期間で視力低下があるならば、生活習慣の見直しが必要です。眼に負担をかける生活習慣が続けば、視力低下も当然起こってきます。視力低下を進めないためには、本人がいかにか自覚して生活習慣を直すかにかかっています。近づいて本を読んでいませんか？ 長時間本を読み続けていませんか？ スマホでゲームやラインを長時間していませんか？ 心当たりがあれば気を付けて下さい。

{Q3}

中学校1年生の欄で、「コンタクトレンズを使用する場合の目にかかる負担や影響について教えてください。」

{A3}

- ① コンタクトレンズ（以下、CL と略す）を使用する前には、まず眼科受診をしてCLを使うことに問題がないかを確認して下さい。基本的に「目やにが出る」「眼がかゆい」「眼が痛い」「瞼が腫れた」といった眼の病気がある場合は、CL の使用はやめて下さい。病気が治りにくくなったり、悪化させます。
- ② CL の長時間装用で眼の充血・痛み・乾きを生じることがあります。自分の眼に合った使用時間を守って下さい。
- ③ 眼の異常を感じたら直ちにCL をはずして眼科受診をして下さい。眼の異常が強ければ、それだけ治るのに時間がかかり、CL をはめられない時間が長くなります。早期発見早期治療です。
- ④ できれば3 か月、少なくとも6 か月に1回は眼科での定期検査を勧めます。視力検査は勿論ですが、眼に異常がないかを確認する必要があります。ドライアイがある場合は、眼科医の指示に従って点眼薬を使用して下さい。
- ⑤ 初めてCL を使う場合、装着脱着練習・消毒方法の説明を受け、正しい取り扱い方を身につけることが重要です。特に、花粉等によるアレルギー性結膜炎のある方は眼の病気を起こすことが多いです。

{Q4}

視力C判定で通院しました。まだメガネは必要ないと言われました。現在はどうでしょうか？

{A4}

定期的に眼科受診されていれば主治医の指示に従って下さい。中学生ですので、学校や塾で自覚的に見つらいならば眼鏡の必要性があると判断します。屈折異常（近視・遠視・乱視の総称）の程度が軽度であれば眼鏡の必要はないと判断します。ご心配ならば眼科主治医とご相談下さい。

{Q5}

右眼眼窩骨折による見えにくさが4月から夏頃までであると思われる。

{A5}

眼窩骨折の場合、骨折している場所によって自覚症状が出る場合とでない場合があります。例えば、眼窩底骨折の場合、上を向く時の眼の動きが悪くなるので、両眼で上を見ると物が二重に見えます。眼窩内側骨折の場合はほとんど症状が出ないと思います。もしも視力低下があるならば、眼打撲に伴う網膜ないし視神経への影響が考えられます。眼窩底骨折があり両眼で見た場合に二重に見えるのが続いていて生活に支障があるようならば、手術が必要と判断します。眼科主治医の指示通りに定期診察を受けて下さい。